

第40回 あいち学童保育研究集会レポート

全体会「子どもの多様性と学童保育について」・第3分科会「現代の性教育について」

【クラブ】（ あおぞらクラブ ）

【名前】（ 大参 凌久 ）

日頃、学童保育所を利用する子どもが安心して学童での生活を過ごしていくために、シスジェンダーの子どもだけでなく、理由に関わらずさまざまな葛藤を抱えている子どもなどさまざまな子どもが安心して生活できる空間づくりをしていくことの重要性を実感しました。例えば学童保育所でのトイレを「男子、女子」で分けるのかという問題は、分けることによるメリットはあるのだろうけど分けてしまうことによりトイレに行けなくなる子どももいる可能性もあるということ、イベント実施の際の景品を「男子、女子」で分けてしまうことで本当に欲しい景品をもらうことのできない子どももいるのかもしれないと感じました。日々多くの人数で生活するクラブにおいて、保育の効率を高めること、子どもの待ち時間を短縮する利点に重点を置くことも必要なことではあると思いますが、効率などを求めるあまり「葛藤や苦しい思いをしてしまう子ども」が出ない工夫していくことで、本当の意味での「居心地のいい、自分の居場所」が作られていくのかなと思います。

現在の日本では、「多様性」や「ダイバーシティ」という言葉が多く出回り、耳にする機会も多くなりましたが、その言葉が存在する以上、特別感を抱いて見ているようにも思います。そのような言葉自体がなくなり「個性」として一人でも多くの人の中に落とし込まれ浸透していくことが理想の社会なのではないかなと講演を聞いて感じました。